

# 日本の考古学発祥の地で生まれた「大森貝塚ビール」

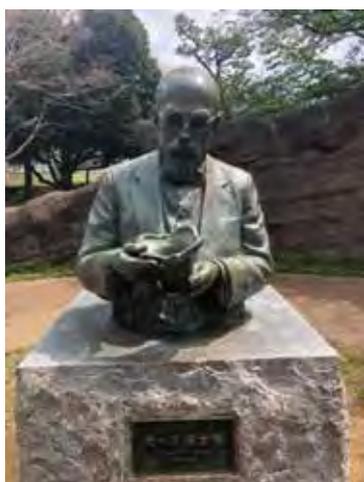
「大森貝塚」は、アメリカの動物学者・エドワード・シルベスター・モース博士（Edward Sylvester Morse 1838～1925年）によって発見・発掘された日本考古学上最初の遺跡です。

1877年（明治10年）、モース博士は腕足類という貝の研究のため来日し、横浜から東京に向かう汽車の窓から貝層を発見しました。これが「大森貝塚」です。縄文時代後期（約3000年前）の遺物が出土し、その発掘場所といわれているのは、大田区、品川の両区に存在します。

「大森貝塚」の発掘記念碑のひとつは、品川区側の「大森貝塚遺跡庭園」（品川区大井6-21-6）に、もうひとつはJR京浜東北線路横・大田区側の「大森貝塚（かいきよ）」（大田区山王1-3-3）に存在します。

発掘調査で出土する遺物からは、品川区が優勢ではあったのですが、断定ができないため、1955年（昭和30年）には、品川区、大田区両方が国の史跡の指定を受けました。また、JR京浜東北線「大森駅」には、日本考古学発祥の地の記念碑が設置されています。

「大森貝塚遺跡庭園」にはモース博士の像が建立され、貝層の剥離標本も設置されています。



「大森貝塚遺跡庭園」のモース博士像

また、「大森貝塚」碑の文字は、理学博士・佐々木忠次郎によるものですが、東京大学理学部生物学科の学生だった1877年（明治10年）、モース博士の指導を受けて、発掘にも参加しました。後に近代養蚕学・製糸学の開拓者になった人物



JR京浜東北線側にある「大森貝塚」碑

です。その佐々木博士が、大森貝塚はここであると主張したのが大田区側の地だったのです。

「大森貝塚ビール」は、日本の考古学発祥の地・大森の大田区山王産ホップで造られたクラフトビールです。

2020年7月3日、産業と文化の新創造を生み出す大田区の新スポット「羽田イノベーションシティ」（天空橋駅直結）がオープン。そこにクラフトビールと各地の地場産品を提供する「羽田スカイブルーイング」が誕生しました。そのオープンにあわせて「大森貝塚ビール」をリリースしました。製造・販売を株式会社大鵬（代表取締役 大屋 幸子）が、コンセプトメイキングとデザインを株式会社ウイル（代表取締役 奥山 睦）が担いました。

大森の地域資源を活用したクラフトビールをどうぞお楽しみください。



1本600円（+税）でご提供しています。

# 「大森貝塚グッズ」ができました！

蒲田・羽田バル、天空橋・羽田スカイブルーイングで大好評を頂いている「大森貝塚ビール」。ビールファン、縄文ファンのご要望にお応えして、「大森貝塚グッズ」(Tシャツ、タオル)ができました。ビールと併せてお楽しみください。



大森貝塚Tシャツ 男女兼用 M/L サイズ 定価 2,500 円 (+税)



大森貝塚タオル 定価 1,000 円 (+税)

販売元：株式会社ウイル

URL : <https://www.officewill.co.jp> Email : [send@officewill.co.jp](mailto:send@officewill.co.jp)